

第19回「文芸思潮」現代詩賞 中間発表 「一次」「二次」「三次」予選

●第19回「文芸思潮」現代詩賞に御応募いただき、まことにありがとうございます。おかげさまで、日本全国および外国より三十二人から作品をお寄せいただきました。心から御礼申し上げます。去る五月三十一日に締め切らせていただき、厳正な一次・二次・三次予選審査を行いました。その結果を謹んでここに発表させていただきます。
無印は一次予選通過者、○印は二次予選通過者、◎印は三次予選通過者です。長いタイトル、複数タイトルは短く省略させていただきます。

北海道

- ◎「令和」 古宮行恵
○「生きたい」 蒼樹ほのお
◎「羽化せぬ蛹」 春町桃花
◎「宇宙と卑小」「クル」 柴田節子
◎「私の生まれる前のさようなら」 五月とじか
○「胡蝶の夢」 和龍美
○「きよらかな魚」 野本篤美
◎「観音様を見送る日」 上木戸晃
◎「新人」「お金」 中原ねも
◎「追憶の一片」「穴」 Columi
◎「ただ」 星埜まひろ
◎「たわむれどき」 中村郁恵
◎「赤らむ頬」 吉田 春
◎「プレゼント」 松岡真弓

青森県

- ◎「人生はどう笑われるか」
◎「若手県」 小山田良三
◎「ライバル？」 H・ei
◎「孤独な朝に」 三浦恵子
◎「息を吹き返す」「舞踏」 原水
◎「宮城県」
◎「見つめられて」 金子忠政
◎「あなたとわたし」 多雨
◎「旅立ち」 安藤志賀
◎「1月18日」 柏村ねお
◎「秋田県」
◎「もしもの話」 工藤美咲
◎「山形県」
◎「もしもの話」 工藤美咲

- ◎「変電所」「氷像」 青木夕海
○「憶、灯」 里井 緑
◎「みどりのうた」 羽鳥結人
◎「福島県」
◎「原点回帰」 卯野彩音
◎「やわらかな答え」 武内ユウ
◎「茨城県」
◎「虹」「病室」 阿部久市
◎「三つの影」 天ヶ谷麗
◎「ゆくりなくも」「窓辺」 関根怜
◎「春の衛星」 街風さいか
◎「恥骨」「道祖神」 篠井雄一朗
◎「記憶」「御池の上の」 あぜ 柊みどり
◎「皐月」 柊みどり
◎「栃木県」
◎「恋模様」「秋空」「臘月」 バナナ たこみ
◎「未来を探す者」 吹木文音
◎「更地」「証明写真」 リヴ
◎「肌」「錆びる果実」
◎「埼玉県」
◎「レイン」「展翅」 黒江修一
◎「花の調べ」 坂井 傑
◎「スーパーマンなんかくそくらえだ！」 三日月李衣

- ◎「居所」 朱泪みね
◎「鱗粉」「現れた母」 北川 聖
◎「センチティブ」 ゆーいち
◎「太陽のデザート」 甘夏これ
◎「スプートニク」 道草なずな
◎「新宿駅、午前二時」 北村灰色
◎「祈り」 青藍
◎「最果てのイマーム」 レイ
◎「渾」「燕」「魔法」 風何
◎「夏の夕立のように」 海月流南
◎「池上彰」「字幕」 渡部榮太
◎「鳥の歌」 四季長明
◎「思考」「おきすすき」 水乃清涼
◎「肌の色は」 まきこうじ
◎「げろと種」 こんどうのか
◎「化石をわたる風」 福永十津
◎「千葉県」
◎「月」「愛のことば」 常本哲郎
◎「生きる意味」 角田和美
◎「恐ろしい音」 大門彩香
◎「金色の雪」「海」 水沢朱実
◎「人生を変えた転機」 Ika
◎「叫びの木霊が」 森下万尋
◎「白いドレスと風の音」「白いソ」

第19回「文芸思潮」現代詩賞 予選通過作品発表

- ツクスであなたの名を」 石川小傘
◎「蜂」「硝子」「刃」 薬師丸怜央
◎「永遠」「刹那」 ヤス
◎「清流」「残照」 田村きみたか
◎「そっち側」「父」 イソノ
◎「残響」 相河史哉
◎「何」「2023/04/06」 白井しき
◎「今日の独り」「行先」 瞭
◎「東京都」
◎「くらげ狼」 庄司直也
◎「こころあらし」 大門真央
◎「硝子の天井」 械冬弱虫
◎「いつか」 ワタナベヒロキ
◎「真実の行方」 今 誠
◎「公園の中」「百」 小島秀雄
◎「獣」 やみくも
◎「四十九日」 齋藤菜摘
◎「五月の響き」 遠藤芳子
◎「最後の野生」 辺見田空
◎「るるる」 たいらゆきこ
◎「私は輝く石の塊」 近藤善揮
◎「ねこの瞳」「星」 織田りん
◎「花に尋ねる」 片岡周子
◎「指先で笑ってる」 南田慎一
◎「加速する季節」 橘こはく
◎「生きず嫌い」 森 菜々子
◎「散歩」「終末」 河合麻衣
◎「終末時計」 弟子丸博道
◎「八月一日と二日」 木村太郎
◎「二つ目の果実」 十野真之

- ◎「石の花」 近藤小百合
◎「詩集『砂の城』より」 光 源詩
◎「鯨の骸」 みずぬまけいだい 永畑加代子
◎「愛しき人へ」 CHIBI
◎「夢で逢いましょう」 深沢彰吾
◎「緋色の海」「帰港」 深沢彰吾
◎「宇宙カマド」 ワタナベモカ
◎「ランドスケープ」 花水
◎「無題」「夜想曲」 大金ゆづき
◎「青曇り」 深名えじ
◎「接木」「冬虫夏草」 四月一日
◎「憧れのマーシャラー」 若林麻衣子
◎「工場地帯」「波紋」 西村 洸
◎「ハイタツチ」 松村玲子
◎「生きる」「残り火」 鈴木太陽
◎「月と弟」 國奥めぐみ
◎「潜水」「鳥舞い」 赤澤玉奈
◎「国道」 中山蜜治
◎「告別」「無常」「今際」 壺中天
◎「中身とその熱」 蕪木さくら
◎「らしい」 いでみどり
◎「引き換える」「暗闇は情報だ」 スリンガーランド明子
◎「月光速」「弦界」 千葉紫月
◎「春がきたら」 里中美月
◎「夜更けのピアノ」 杉平 敦
◎「せいかつ」「岬」 桑島明大
◎「身に余る人生」 実川阿仁
◎「対岸」「干上がる鯨」 河 機

- ◎「湿り」「風景と皮膚」 川寄雄司
◎「銀の雨」「愛の呼吸」 花虹
◎「くずおれ」 秦 大地
◎「饑」 宮本京佳
◎「一緒に映画を」 泉田
◎「春日」「古墳」 清水一美
◎「抗体集団」「血縁」 今宿未悠
◎「高校時代」 井上正行
◎「行進曲」「誰だ」 花山徳康
◎「麒麟の背鰭」 まほろばしじみ 齋藤こもれば
◎「春風のとおり道」 ユウアイト
◎「跨いでは」「イオ」 色透 諷
◎「卒業証書」 薛沙耶伽
◎「DEEP END」 渡辺八登
◎「味蕾に針」 川島佐保
◎「やさしい重さ」 小山将平
◎「姿に宿るなら」
◎「神奈川県」
◎「限りのない旅」 松原泰子
◎「淡い想い」 福井雅人
◎「遊戯場への埋没」 佐藤 裕
◎「たまき」「シキ」 黒冬
◎「涙雨より」「花瓶」 田咲恵子
◎「ギリギリライフ」 定食亭定吉
◎「しゅんしゅう」 あひこみさき
◎「絵描き」 加藤雄三
◎「幸」と「辛」 唯蓋尋
◎「昼下がりのJIVE」 大河内うた
◎「立ち話から」 横井純子
◎「サボテン三詩」 まみつぶ。○。○
◎「累日」「浮世」 キネブチタツヤ
◎「無の乱打」 木戸秋波留紀
◎「夢」「埴輪」 小杉山立夏子
◎「アカ」「R」 一色音々
◎「発芽」 鈴木一林
◎「陶器と木匣」「秘跡」 華賀透
◎「あの子はだあれ」 塩路明子
◎「ハッカ飴」「桜」 杜山美帆
◎「倒れた母へ」「星」 伊藤 海
◎「ツンドラの紅葉」 古林 暁
◎「童影」「透明感覚」 井澤禎雄
◎「さすらい人へ」 ノンキュリー
◎「夕立のあと」 猫柳木りさ
◎「ドラキュラの昼職」 夜長 友
◎「アルペド」「誕生」 水庭まみ
◎「スポンジ」「貯金箱」 橋本琳心
◎「透明が彩る」 生魚はるか
◎「マグダラのマリア」 斎藤未菜
◎「新潟県」
◎「忙しい鯉夫」 梨本清一
◎「鬱とソート」「秋涼」 川名 淳
◎「弾薬にした」 イノウエケイタ
◎「LIFE」 CONSONTED25
◎「曲線」「泣くまに」 優木絆名
◎「富山県」
◎「電子レンジ」 有澤かおり
◎「石川県」
◎「ようこそ世界」 深谷螢斗
◎「歴史の呼び声」 酒井恵三
◎「発光抄」 裏路地下クソ

- 「ロト6宝くじ」 長戸 実
○「心の傷 (HEART BREAK)」 中村 隆
●山梨県
○「金婚式」「春の雪」 ふきのとう
○「暗闇を突っ走れ」 田中浩司
○「折鶴」「泥」 徳川春陽
○「別の誰かに」 正夢
○「狼の読書会」 上原翔子
●長野県
○「花魁」 今井葉子
○「無力」「牛蛙の恋」 泉月五日
○「竜宮日和」「愛」 塚田まゆみ
○「はとバスツアー」 妻咲邦香
○「氷雪」「混」「泣く」 片岡山
●岐阜県
○「ペテロの紙片」 岩崎 明
○「白い花」「水の孤独」 後藤 順
○「あお」「雨模様」 下原整走
○「死ぬまでの時間」 砂子
●静岡県
○「光に向かって」 水野次郎
○「ことば」 新神由利恵
○「山は笑う」 田村全子
○「古屋敷撤去」 後藤敏斤
○「八月のカレンダーに裏返しに挟まれた奇妙な風景写真から」
「怒り」「ひととき」 正田あゆみ
「端の免責規定」やまととたける
○「吹子」「森」「海」 坂田康雄
●愛知県
○「獣の存在」「朝の光」 瑠璃 光
○「ゴッホ」「蝶蝶」 関戸都志正
○「胸の内の喫水線」 舟橋空児
○「いずれ、雨になる」 徳丸魁人
●三重県
○「サヨウナラ」「旗」 岩谷隆司
○「レクイエム」鎮魂の挿名詩「
○「祖父の匂い」 晴転雨読
○「満ちる」「欠ける」 七寒六温
○「銀砂」 鴉蝶
○「あれから」 背中す春
○「淋しい春」「静か」 屋敷旺甫
○「年若い町」 成瀬十八
○「白い木」 戸田和樹
○「初恋の雨」 塩谷瑠致
○「水風呂」 設楽いくこ
○「紅の涙」「戀」「風吹かば」燕
○「心臓の天蓋の流動」 曲田尚生
○「袋」 為平 滯
○「星を見て、帆を上げる」「あな
たが秘密をもつならば」 日下直哉
○「雨とまちの詩」 Churro_step
○「現代」 ヴェナート・サハラ
●大阪府
○「鬼ごっこ」 中川 望
○「胸に迫る不安感」 村雨巧夢

- 「父」「最期の対局」 中村 満
○「古里」「時間」 たなかちよ
○「ギラクシー嫁」 南原魚人
○「異邦の海辺で」「足」 吉田健一
○「手裏剣」「ジロ」 飯干飢作
○「写真」「神隠し」 愛羽 文
○「母へ」「晴れた日」 志田 恵
○「奏」 市原美実子
○「月と花嫁」「こころ」 宥喜 哀
○「日帰り旅行」 空見タイガ
○「猫と月」「結び目」 蔭山雪之丞
○「砂場」「分離」 三舟いと
●兵庫県
○「底面」「大がのる」 土室寧二
○「樹の記憶」「河面」 高木敏克
○「いや違う」 うちゅ。
○「生業」 東風佳子
○「晩餐」「安定雑駁者」 在月水花
○「まちあわせのレッスン」
○「永遠の愛おしさ」 佐々木樹
○「あざなう月」 内山ヒロユキ
○「相思」「まどろみ」 春野太郎
●奈良県
○「指さす詩人」 桃山パウワウ
○「三月」「遠景」 中牟田桃園
○「世界樹」「vector」 インバ
○「あまいひかり」 有原悠二
○「魚の国」 三日月ユキ
●和歌山県
○「聖夜」「田舎の児」 小鷹ロビン
●島根県
○「すずらの音色」 H1
○「どぶから柱」「椿」 橘いずみ
●岡山県
○「おれ」「道」 三倉潤悟
○「僕の部屋」 新里 輪
●広島県
○「路上にて」 いまだまりこ
○「あちらの人」 まったりねずみ
○「夢見る細胞」「藍魂」 神崎梨花
○「あらたふと」 ふき
○「三百六十五連休」はしのぶしげ
○「戦争の鼓動が再び」塚 永行
○「道徳のお時間」「事情」 澄乍
○「光る盲腸」「変身」 種高 誠
○「捧ぐ」「静かな恋」 ミキコトホ
○「名もなき日々」 妖希
○「わたし」 林檎
○「雨」「星を眺める」 岡部憲和
○「月下の送別」 川咲道穂
○「命」「通り過ぎる」 河内銀太
●山口県
○「来し方行く末」 晴野康史
●徳島県
○「問」「運針」「約束」 村上文緒
●香川県
○「私の生き様」 濱崎恭子
○「自由帳」「心象世界」 久保慧眼
○「通学路」 永井愛夏

- 「白いキャンパス」 山路萌黄
●高知県
○「風呂の穴」 赤井紫蘇
○「打たれたママシ」 小原友紀
●福岡県
○「日曜日」 長尾芽里
○「宇宙のことば」 須藤 東
○「神様もしも」 なかむらみほ
○「私は生きてる」 吉岡幸一
○「絶望讃歌」 十路田道広
○「慟哭」「追憶を超え」 久利潤保
○「審判の箱」 泉水雄矢
○「タレーラン」 秋田志穂
○「地球の呼吸」 中村巨大
○「夜光放浪第三夜」「少数派のキ
ング・チェア」 アマエガナリ
○「人間の自由と縁」 原口幸治
○「殺人前夜」「夢追い」 高田テラ
●佐賀県
○「燈」「鎮生歌」 赤井理都
●長崎県
○「きみは平戸のビーチへ行ったか
い」 永田米吉
○「闇を持つ者へ」 貝塚マナ
○「暗い道」「トンネル」 猫桜颯輝
●熊本県
○「七十八億分の一人の螺旋階段」
AMARE
○「亡者の声」「咆稿」 田中傲岸
○「葛藤」「目先の光」 タチクサ



- 「影ふみ」 清水らくは
○「貝殻」「回転草」「千日紅」 蛟
○「くるりったん」 中立明子
○「水平線の悲哀」 小池まや
○「深海魚」「0 地点 on the
earth」 keiseihh(sterotype2085)
●大分県
○「082」 マッシバンバータ
●鹿児島県
○「オリオン座の哀しみを」 麻貴
○「古里の不易旅行」 浜尾 夕
●沖縄県
○「大切な思い出」「名無し」 泉庵
○「Tragic Lovers」 つむぐ
○「わったー」「風土」 幸地チカソ
○「あとがき」 鳥頭九丸
○「伊集の森」「器物破損」 琴森戀
○「地獄の蓮」 藍原知音
●海外
○「紐育の春」 露香
○「夜へのラブコール」 辻 雄斗
○「生のつどろ」 阿部静雄
○「 Hug」 音成映舞

第19回「文芸思潮」現代詩賞中間発表

応募者の皆様へ

第一次・第二次・第三次の選考につ
いて

第19回「文芸思潮」現代詩賞への
御応募まことにありがとうございます。
す。第一次・第二次・第三次選考に
ついて選考委員会より付記させてい
ただきます。

第一次予選の選考基準は、詩の言
葉になっているかどうかが最重要の
基準点となります。またさらに訴え
る姿勢や言葉の強さも加味させてい
ただきました。詩の言葉としては硬
度が足りなかったり、やや稚拙であ
っても、他者に訴えたい切実なもの
が強く感じられる作品は一次を通過
しています。一次予選通過には、何
%とか、何篇以内とか、数字の枠は
ありません。したがって、応募者全
員が一次予選合格ということもあり
得ます。

また第二次予選は、その中でさら
に強く何かが感じられるもの、詩の
形としてしっかり翼を得ているも
の、言葉の光るものを選びます。
一行でもいい、一句でもいい、何か
一つ心に残る新鮮な言葉、結晶度の
高い言葉があるかどうか、心の真実
がこもっているかどうか、思いとし
て滑空しているかどうかポイント

になります。

第三次予選は、よりたくさんの人
に読んでほしいような普遍的な
表現力を備えているかが、選考の基
準になります。詩としてたくさん
の人に読んでほしいという普遍的な生
命力を持っているかどうかポイント
です。できれば人の心に残って新
たな力になるような魅力も備えてい
ると推しやすくなります。方法とし
て斬新なものも注目ポイントとして加
えられることもあります。

「文芸思潮」選考委員会では、選考
の便宜性のために通過作品数を何編
以内と制限するのではなく、あくま
で作品の内容を重視して、優れた作
品がたくさんあれば、できるだけそ
の作品の価値やレベルによって、作
品を残すよう心がけています。した
がって、場合によってはたくさん
の作品が三次予選、さらにその上
に出される可能性もあります。

どうかこれらの点を御了解くださ
いますようお願い申し上げます。ま
た次回もどうかこのことを念頭にお
いて御応募いただけましたら幸い
です。

〔「文芸思潮」現代詩賞選考委員会〕